

社会・地歴科教育法における ICT 活用指導力の育成

成田健之介（南山大学教職センター）

概要：教科での指導の効果を高めるための ICT 活用は、学習指導と ICT 活用を計画的に関連付けて行う必要がある。単に授業で ICT を活用すれば教育効果が高まるものではなく、それを実際に授業で使うための授業技術の向上が不可欠である。教職課程「社会・地歴科教育法」で模擬授業を行う中で、模擬授業の計画段階において、指導の目的に合わせた ICT の活用、情報手段の特性に応じた選択、授業場面での提示方法やタイミング等についての指導を通して、授業中に ICT を活用して指導する能力の向上を目指した実践を報告する。

キーワード：教科指導，ICT の活用，教職課程，社会・地歴科教育法

1 はじめに

平成 26 年度 文部科学白書では、「教育における ICT（情報通信技術）の活用は、子供たちの学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業や子供たちの主体的・協働的な学び（いわゆる『アクティブ・ラーニング』）を実現する上で効果的であり、確かな学力の育成に資するもの」と提言されている。※1

教職課程を履修する学生は、「教育方法の理論と技術」等の科目で、情報機器の操作を含む授業における ICT 活用について学ぶ。しかし、情報端末を使いこなす学生であっても、具体的な教科の指導での効果的な ICT 活用について学ぶ機会は多くない。そこで、中学校社会科と高等学校地歴科の具体的な指導法を扱う「社会・地歴科教育法」において、授業のねらいに適した ICT 活用を、体験的に学ばせてきた。

2 実践のねらいと方法

（1）実践のねらい

ICT をどう活用するかという ICT 活用を前提とした指導ではなく、社会科・地歴科の目標達成を前提とし、選択肢の一つとして必用に応じた ICT の活用を考えられるようにすることをねらいとした。

（2）社会科，地歴科の教材の特色

中学校社会科地理的分野と歴史的分野，高等学校地歴科では，歴史的史料や文化財の写真，地図や図表など印刷された資料を読み取る場面が多い。また，放送教材や YouTube などの映像教材も豊富である。これらの資料を，指導計画に的確に位置づけ，適切な提示方法を選択する必要がある。

（3）実践の方法

- ア 教員が講義内容に合わせて，講義の中で，意図的に ICT 機器を活用する場面を示す。
- イ 模擬授業の計画場面で，授業に生かす ICT の活用について具体的に検討させる。
- ウ 社会・地歴科での ICT 活用の概要と ICT 機器の接続方法や使用方法など具体的な機器の扱い方などをシラバスに位置づける。
- エ 模擬授業を実施し，適切な活用であったかを事後検討会で振り返る。

3 実践の内容

（1）教員による講義での ICT の活用

スライドを使った講義，DVD による授業映像や映像資料の紹介，書画カメラを使った資料提示，動画コンテンツや Skype による海外へのインタビュー等を意図的に実施した。

(2) 模擬授業での教材研究

「社会・地歴科教育法A」では、チームによる模擬授業を行っている。資料の選択の際にはデジタルコンテンツや資料スライドの使用が適すかの判断、使用教材の特性と使用方法等をそれぞれの計画に即してアドバイスした。また、ICTの日常的な活用の観点からタブレットやノートPCによる指導案等の作成も推奨してきた。



(3) 機器の接続方法や使用方法の習得

模擬授業のリハーサル時には、使用する情報機器の準備を学生に経験させた。実際に学校で使用する環境を想定して、接続方法や使用方法を実際に体験させた。



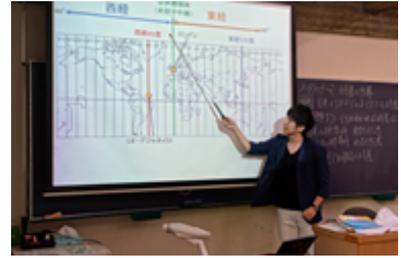
(4) 模擬授業での活用

ア 書画カメラは多くの学生が活用した。教科書や資料を拡大する効果考えた上で資料を選択する必要性を実感させた。



イ コンピュータの活用では、PowerPointやKeynoteのスライドを使う学生も多いが、板書のかわりにスライドで解説をする場面を計画する学生が多かった。資料としての役割を指導することによって、ピンポイントでの

使用や、板書との併用を意識した活用など工夫するようになった。インターネットを使ってライブカメラを使ったり、YouTubeやSNSを教材として使ったりする学生もみられた。



4 考察

教材研究の過程でICTの活用の効果を考えたり、実際にリハーサルで試したりする中で、ICT機器の活用の適否、教材コンテンツの選択の必要性や提示のタイミング、提示方法を考えるようになった。学生の中には、マインドクラフトで縄文時代の竪穴住居のアニメーションと実際の住居の写真を組み合わせた自作コンテンツを使って授業を計画する学生もいた。学生達の多くは、授業中にICTを活用して指導する能力の向上が感じられた。※2

5 結論

教職課程における教科指導法の科目において、各科目の特性に合わせたICT活用方法を学ばせることは、授業中にICTを活用して指導する能力を向上させるために効果的である。

6 今後の課題

これまで社会科、地歴科での効果的なICT活用について指導を進めてきた。しかし、その後教師となって学校現場で授業を進めている卒業生の授業を見る機会はほとんど無い。新任研修等でさらにICT活用について学んだ卒業生達の日常のICT活用についてリサーチする必要性を感じている。

参考文献等

- ※1 平成26年度 文部科学白書 第2部 第11章 ICTの活用の推進 pp.362 2014
- ※2 「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において実施している教員のICT活用指導力チェックリスト